

街全体が一つの書店

神田神保町の190店が連携

める本が互いの店のどの売り場にあるかが即座に検索できる単品管理システムを構築した。

書泉グランデなどを運営する書泉(酒井ミチ社長)とも、近く在庫システムを統合する。自分の店に客の求める本がなければ、在庫のある提携先を紹介して、神保町エリアから来店客を逃がさない戦略だ。資本系列を越えて在庫情報を教え合う取り組みは業界でも例がないという。

三社は神保町かいわいの古書店在庫を検索できるインターネット情報サイトを

「ブックタウン じんぼう」で地域の在庫データを公開している。

「http://jimhou.info/」

とも手を結ぶ。

同サイトは特定非営利活動法人(NPO法人)の連

想出版(高野明彦代表)がをパソコンに入力するだけで、神保町書店街にあるほとんどの新刊書、古書の在庫と取扱店を検索できるようになる。

神保町で営業している書店は新刊書で約三十、古書関連で約百六十。延べ一千万冊の本が店頭や倉庫にあるといわれる半面、購買客の「欲しい本がどの店にあるかわからない」という声は絶えない。他の地域で大型書店が相次ぎオープンするなか、書店側にも客の流出への危機感が高まっていた。

新刊書店と古書店はこれまで「神保町ブックフェスティバル」などのイベントで協力してきたが、地域振興を旗印に、さらに一歩進んだ連携に踏み切る。

来店客を地域ぐるみで囲い込む。日本最大の本の街、東京・神田神保町で大小百九十あまりの新刊書店と古書店が本格的な連携に乗り出す。三省堂書店(亀井忠雄社長)など新刊書販売の大手三社が在庫情報の相互開示で提携。これを足がかりに地域の古書店との連携も深め、来春からは「書店街にある新刊書、古書

全店の在庫検索可能に



地域全体で一千万冊の本があるといわれる(神田神保町の三省堂書店)

